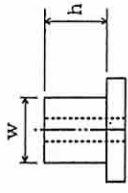
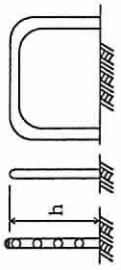
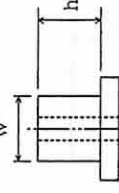
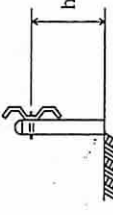
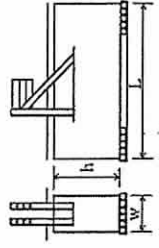
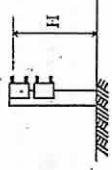


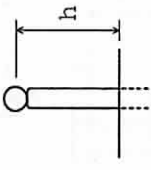
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	-30
						幅	w
						高さ	h
					パイプ取付高 H	+30 -20	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	-30
						幅	w
						高さ	h
					ビーム取付高 H	+30 -20	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	-30
						幅	w
						高さ	h
					延長 L	-100	
					ケーブル取付高 H	+30 -20	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下 のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基に つき 1 箇所測定。 1 箇所 / 1 施工箇所	 	
	1 箇所 / 施工延長 40m 40m 以下のものは、2 箇所 / 1 施工箇 所。 1 箇所 / 1 施工箇所	 
1 箇所 / 1 基礎毎 1 箇所 / 1 施工箇所	 	

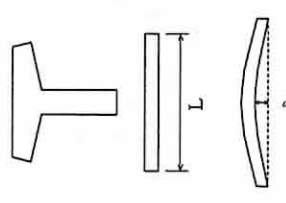
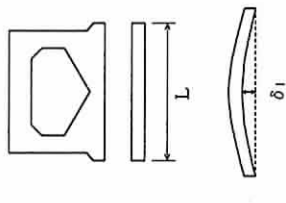
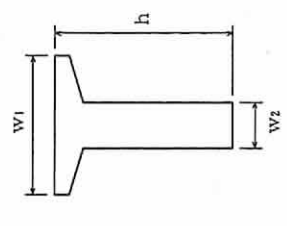
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
						厚 さ t (溶融式のみ)	幅 w	
3	2	3	9		区画線工			設計値以上
								設計値以上
3	2	3	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	
3	2	3	11		コンクリート面塗装工	塗 料 使 用 量		鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74「表Ⅱ.5.5 各塗料の標準使用量と標準塗膜厚」の標準使用量以上。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		
塗装系ごとに塗装面積を算出・照査して、各塗装の必要量を求め、塗布作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗布作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		

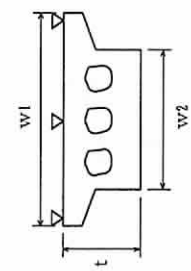
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	±L/1000
						断面の外形寸法	±5
						橋 桁 の そ り δ_1	±8
						横方向の曲がり δ_2	±10
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m
						断面の外形寸法	±5
						橋 桁 の そ り δ_1	±8
						横方向の曲がり δ_2	±10
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	13	ポストテンション桁 製作工	幅 (上) w_1	+10 -5	
					幅 (下) w_2	±5	
					高 さ h	+10 -5	
					桁 長 ℓ	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell$ -5) かつ	
					支 間 長	-30mm 以内	
					横方向最大タワミ	0.8 ℓ	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。		
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3箇所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。 ℓ : 支間長 (m)		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14	1	プレキャストセグメント 製作工(購入工)	桁 長 ℓ	—
						断面の外形寸法 (mm)	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14	2	プレキャストセグメント 主桁組立工	桁 長 ℓ	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm$ ($\ell - 5$) かつ
						支 間 長	
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	15		PCホロースラブ製作工	基 準 高	± 20
						幅 w_1, w_2	-5 ~ +30
						厚 さ t	-10 ~ +20
						桁 長 ℓ	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm$ ($\ell - 5$) かつ
							-30mm 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレストリング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : 支間長 (m)		
桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第5編 4-7-2床版工に準ずる。 ℓ : 桁長 (m)		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	土木工事共通編	2	16	1	PC箱桁製作工	基 準 高	±20
						幅 (上) w_1	-5~+30
						幅 (下) w_2	-5~+30
						内 空 幅 w_3	±5
						高 さ h_1	+10 -5
						内空高さ h_2	+10 -5
						桁 長 l	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots \pm (l-5)$ かつ -30mm 以内
						幅 (上) w_1	-5~+30
						幅 (下) w_2	-5~+30
						内 空 幅 w_3	±5
高 さ h_1	+10 -5						
内空高さ h_2	+10 -5						
桁 長 l	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots \pm (l-5)$ かつ -30mm 以内						

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。</p> <p>※鉄筋の出来形管理基準については、第 5 編 4-7-2 床版工に準ずる。</p> <p>l : 桁長 (m)</p>		
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレスストレッチング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。</p> <p>※鉄筋の出来形管理基準については、第 5 編 4-7-2 床版工に準ずる。</p> <p>l : 桁長 (m)</p>		

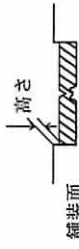
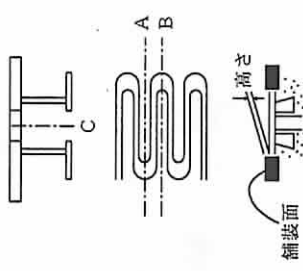
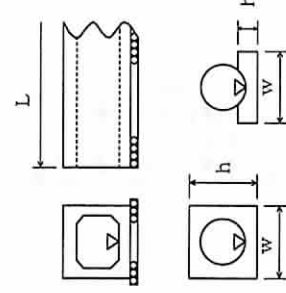
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値
3	2	3	19		現場塗装工		塗膜厚	<p>a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>

測定基準	測定箇所	摘要
<p>塗装終了時に測定。</p> <p>1 ロットの大きさは500㎡とする。</p> <p>1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	20	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	舗装面に対し 0～-2
						表面の凹凸	3
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0～-2
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	20	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガンジョ イント)	高さ	±3
						据付け高さ	±3
						車線方向各点誤差 の相対差	3
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	20	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガンジョ イント)	表面の凹凸	3
						歯型板面の歯咬み合い部 の高低差	2
						縦方向間隔	±2
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	20	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガンジョ イント)	横方向間隔	±5
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0～-2
						基準高 ∇	±30
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	20	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガンジョ イント)	※幅 w	-50
						※高さ h	-30
						延長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。		
1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延長 L	-200	1 箇所 / 1 施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22	2	現場打水路工	基準高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						厚さ t_1, t_2	-20			
						幅 w	-30	1 施工箇所毎		
						高さ h_1, h_2	-30			
						延長 L	-200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22	3	暗渠工	基準高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25m) の場合は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 (なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。)		
						幅 w_1, w_2	-50	1 施工箇所毎		
						深さ h	-30			
						延長 L	-200			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	23		集水鉢	基準高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	24		かごマット工	法長 ℓ	-100
						厚さ t	$-0.2t$
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上
						厚さ t_1, t_2	-30
						延長 L	各構造物の規格値による
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3		基礎工 (現場打)	基準高 ∇	± 30
						幅 w	-30
						高さ h	-30
						延長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	4	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内
						傾 斜	1/100以内
3	2	4	5		深礎工	基準高▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4以内かつ 100以内
						傾 斜	1/50以内
3	2	4	6		オープンケーソン基礎工	基準高▽	±100
						ケーソンの長さℓ	-50
						ケーソンの幅 w	-50
						ケーソンの高さh	-100
						ケーソンの壁厚t	-20
						偏 心 量 d	300以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数について杭中心で測定。	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p>	
全数について杭中心で測定。	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p>	
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3	2	5	3		コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張)	基準高 ∇	± 50
						法長 l	-50
						$l < 3\text{m}$	-50
						$l \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ (ブロック積張) t_1	-50
						厚さ (裏込) t_2	-50
						延長 L	-200
						法勾配	$\pm 0.2\text{分}$
3	2	5	4		石積(張)工	基準高 ∇	± 50
						法長 l	-50
						$l < 3\text{m}$	-50
						$l \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ (石積・張) t_1	-50
						厚さ (裏込) t_2	-50
						延長 L	-200
						法勾配	$\pm 0.2\text{分}$

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端 部の 2 箇所を測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端 部の 2 箇所を測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	規格値
3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	-45	-45	-15
						幅	-50	-50	—
3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さい	-25	-30	-8
						幅	-50	-50	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくとも良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上ででの工事が可能な工事であり、舗装施工面積が10,000㎡以上あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できざる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場台で次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で、1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、500t以上3,000t未満 厚さは個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬととも、10個の測定値の平均値(X₁₀)について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均は適用しない。</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 寸	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	-	-
3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 寸	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	-	-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1箇所の割でコア一を採取もしくは掘り起こして測定。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。また、1,000㎡未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が10,000㎡以上あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合は該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合作で次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で、1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、500t以上3,000t未満 厚さは個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均は適用しない。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1箇所の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000㎡未満の場合は最低3個とする。また、1,000㎡未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	小規模以下
3	2	6	1	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	中規模以上 -9	中規模以上 -12	小規模以下 -4
						幅	-25	-25	-
3	2	6	1	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-3
						幅	-25	-25	-
						平坦性	-	3m ² プロットカー (σ) 2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm以下	

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1箇所の割でコアーを採取して測定。ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が10,000 m ² 以上あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、3,000t 以上の場合は該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で、1,000 m ² 以上10,000 m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、500t 以上3,000t 未満 厚さは個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均は適用しない。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 1,000 m ² 未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。</p> <p>なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。</p>	
<p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p> <p>なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)		
						厚 度	中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 度	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	-	-
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 度	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	-	-
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 度	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	-	-
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 度	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	-	-
						平坦性	-	-	3mプロファイル (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアを採取もしくは掘り起して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映でききる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	1,000 m ² 未満の舗装工事及び維持工事ににおいては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	規格	
3	2	6	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	中規模 以上	中規模 以下	小規模 以上	小規模 以下
						厚 さ	±40	±50	—	—
						幅	-45	-45	-15	-15
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—
						—	—	—	—	
3	2	6	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—
						—	—	—	—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長 40m毎に 1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1箇所の割に測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくとも良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果をより管理に反映でききる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。 コア採取については 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 1,000 m³未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1箇所を掘り起こして測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくとも良い。</p>		
<p>幅は、延長 80m毎に 1箇所の割とし、厚さは、1000 m³に 1箇所の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 ただし、3,000 m³未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m³未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)			
3	2	6	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	中規模 小規模 以下 以上	-15	-20	-5	-7
						幅		-50	-50	-	-
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	中規模 小規模 以下 以上	-9	-12	-3	-4
						幅		-25	-25	-	-
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ		-7	-9	-2	-3
						幅		-25	-25	-	-
3	2	6	9			平坦性		-			3mアール以下 (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に1個の割でコアを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合同じが該当する。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に1個の割でコアを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に1個の割でコアを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	1,000 m ² 未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (\bar{X}_{10})
3	2	6	10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50	—
							中規模以上	中規模以上
3	2	6	10	2	透水性舗装工 (表層工)	厚 さ	$t < 15\text{cm}$	-10
							$t \geq 15\text{cm}$	-15
3	2	6	10	2	透水性舗装工 (表層工)	幅	—100	—
							—	—
3	2	6	10	2	透水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-9	-3
							-25	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。 ※歩道舗装に適用する。</p>	<p>工事規模の考え方は、中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模工事とは、表層及び基層のアスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。また、10個の測定値の平均値 (\bar{X}_{10}) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均は適用しない。</p>	
<p>幅は、片側延長80m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアを採取して測定。 ただし、600mm未満の場合は最低3個とする。 ※歩道舗装に適用する。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均 (\bar{X}_{10})	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	1	グーラスアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-	-	-
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	2	グーラスアスファルト 舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	-	-
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	3	グーラスアスファルト 舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	-	-
						平坦性	-	-	3m ² プロットメー (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き)	3m ² プロットメー (σ)1.75mm以 下

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に1個の割でコアーを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合は該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合は該当する。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 m ² に1個の割でコアーを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に1個の割でコアーを採取して測定。 ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	1,000 m ² 未満の舗装工事及び維持工事に於いては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (\bar{X}_{10})	中規模以上
3	2	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	-45	-15	-15
						幅	-50	—	—
3	2	6	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p> <p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。</p> <p>なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m²以上とする。 小規模とは、表面及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m²未満。厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。ただし、10 個の測定値の平均値 (\bar{X}_{10}) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p> <p>なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	中規模以上
3	2	6	12	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・珪青)安定処理工)	厚	中規模以上 -25	-30	-8
						幅	-50	-	-
3	2	6	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚	中規模以上 -9	-12	-3
						幅	-25	-	-

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m ³ に 1 箇所の割でコア一を採取もしくは掘り起こして測定。ただし、3,000 m ³ 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m ³ 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m ³ に 1 箇所の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000 m ³ 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m ³ 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均値 (X ₁₀)
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	-10	-3.5
						幅	-25	-
						平坦性	-	コンクリートの硬化後 3mプロファイルメータにより機械舗設の場合 (σ) 2.4mm 以下 人力舗設の場合 (σ) 3mm 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	目地段差	± 2	
						基準高▽	±40	±50
						厚 さ	-45	-15
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-
						厚 さ	-25	-30
						幅	-50	-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200mm 毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定、 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割で測定。 平坦性は各車線毎に版縁から 1 m の線上、全延長とする。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬととも、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。 基準高は、延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200mm 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。	1,000 m ² 未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200mm 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・ 瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50		
3	2	6	12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さい	-9	-12	-3
						幅	-25		
3	2	6	12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さい	-15		-4.5
						幅	-35		
						平坦性			転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより(σ)2.4mm以下。
						目地段差			±2

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコア一を採取もしくは、掘り起こして測定。ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬととも、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 1,000 m ² 未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
3	2	6	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50
						厚 さ	-45	-15
						幅	-50	-
3	2	6	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 ざ	-25	-30
						幅	-50	-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 (X₁₀) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (\bar{x}_n)	規格値
3	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50	-	-
3	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5
						幅	-50	-	-
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3
						幅	-25	-	-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコア一を採取もしくは掘り起こして測定。ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 (\bar{x}_{10}) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000 m ² 未満の場合は最低3個とする。また、1,000 m ² 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	備考
3	2	6	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚さ	-45	-15	—
						幅	-50	—	—
3	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は、延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>工事規模の考え方は、1 層あたりの施工面積が 2,000 m²以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m²未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくても良い。</p>		

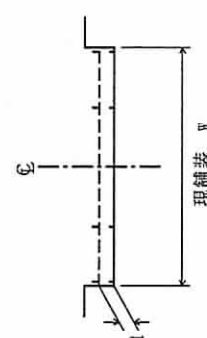
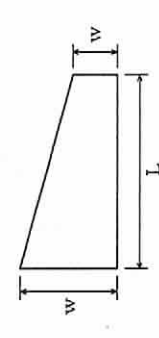
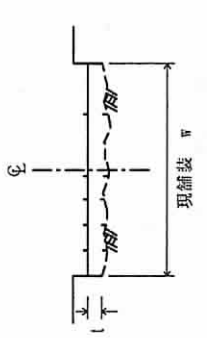
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (\bar{X}_{10})	
3	2	6	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50		-
3	2	6	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さい	-15	-20	-5
						幅	-50		-
3	2	6	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さい	-9	-12	-3
						幅	-25		-

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 mmに1個の割でコア一を採取もしくは掘り起こして測定。ただし、3,000 mm未満の場合は最低3個とする。また、1,000 mm未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。ただし、10個の測定値の平均値 (\bar{X}_{10}) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 mmに1個の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000 mm未満の場合は最低3個とする。また、1,000 mm未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 mmに1個の割でコア一を採取して測定。ただし、3,000 mm未満の場合は最低3個とする。また、1,000 mm未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (\bar{X}_n)
3	2	6	15		路面切削工	厚さ t	-7	-2
						幅 w	-25	-
3	2	6	16		舗装打換え工	幅 w	-50	
						延長 L	-100	
						厚さ t	該当工種	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						厚さ t	該当工種	
3	2	6	17		オーバーレイ工	厚さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
								3m ² 以下 (σ)2.4mm以下
						平坦性	-	直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下

測定基準	測定箇所	摘要
厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
各層毎1箇所/1施工箇所		
厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		

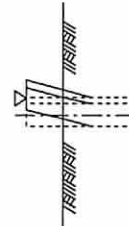
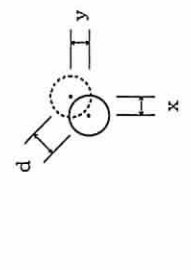
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3	土木工事共通編	2	7	地盤改良工	路床安定処理工	基準高 ∇	± 50
						施工厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延長 L	-200
3	土木工事共通編	2	7	地盤改良工	置換工	基準高 ∇	± 50
						置換厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>延長40m毎に1箇所を割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所、延長40m （50m）以下のものは1施工箇所につ き2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	9 柵工	2		一般事項 (編柵工) (木柵工及び丸太柵工) (コンクリート柵工) (鋼製及び合成樹脂二次製品の柵工)		延長 L	-100
			3				総延長 L	-200
			4				高さ h	-50
			5					
3 土木工事共通編	2 一般施工	11 仮設工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)		基準高 ▽	±100
							根入 長	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	11 仮設工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)		削孔深さ ℓ	設計深さ以上
							配置誤差 d	100

測定基準	測定箇所	摘要
展開図の全測線を測定し、総延長を累計する。 総延長は、種別単位とする。 高さは、40mにつき1箇所。中心線及び端部で測定。40m以下は2箇所。		杭・苗木本数を合わせて測定
基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合)につき1箇所。 延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
全数 (任意仮設は除く)	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値
3	2	12	1	1	製造費 (金属支承工)	上下部 鋼構造物との 接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0
							センターボスを基準 にした孔位置のずれ	
							中心距離	
							≤1000mm	1以下
							センターボスを基準 にした孔位置のずれ	
							>1000mm	1.5以下
							孔の直径	
						アンカーボルト用孔（鑄放し）	≤100mm	+3 -1
							>100mm	+4 -2
							孔の中心距離	JIS B 0403-95 CT13
							ボスの直径	+0 -1
						センターボス	ボスの高さ	+1 -0

測定基準	測定箇所	摘要
製品全数を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	
3	土木工事共通編	2 一般施工	1	1	製造費 (金属支承工)	上巻の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13	規格値	
							全移動量 ℓ	± 2	
							$\ell > 300\text{mm}$	$\pm \ell / 100$	
							上、下面加工仕上げ	± 3	
							組立絶対高さH	± 3	
							コンクリート構造用		
							H ≤ 300mm		
							H > 300mm	(H/200+3) 小数点以下切り捨て	
							普通寸法	JIS B 0403-95 CT14	
							普通寸法	JIS B 0403-95 CT15	
普通寸法	JIS B 0405-91 粗級								
普通寸法	JIS B 0417-79 B級								
3	土木工事共通編	2 一般施工	2	2	製造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長さ L 直径 D	JIS B 0403-95 CT13	規格値	
							幅 w	0 ~ +5	
							長さ L	0 ~ +1 %	
							直径 D	0 ~ +15	
							厚さ t	± 0.5	
							厚さ t	$\pm 2.5\%$	
							厚さ t	± 4	
							厚さ t	± 4	
							厚さ t	± 4	
							厚さ t	± 4	
厚さ t	± 4								

測定基準	測定箇所	摘要
製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対しては CT13 を適用する。		
製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値
3	2	12	1	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部 材 精 度	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots$ $w \leq 0.5$
							腹板高 h (m)	$\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$
							腹板間隔 b' (m)	$\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
							鋼板及びトラス等の部材の腹板平面度 δ (mm)	$h/250$ $b/150$
							フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
							鋼げた 部材長 l (m)	$\pm 3 \dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots$ $l > 10$
							トラス、アーチなど	$\pm 2 \dots$ $l \leq 10$ $\pm 3 \dots$ $l > 10$
							圧縮材の曲がり δ (mm)	$l/1000$

※規格値の w, l に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ 、フランジの直角度 δ 、圧縮材の曲り δ 」の規格値の h, b, w, l に代入する数値はmm単位の数値とする。

測 定 基 準	測 定 箇 所	測 定 簡 所	測 定 簡 要
主げた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		I型鋼げた トラス弦材	
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。			
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。			
原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			
主要部材全数を測定。 l : 部材長 (mm)			

単位：mm

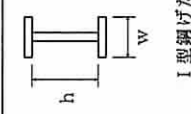
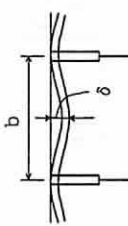
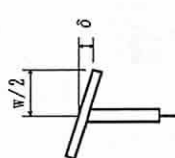
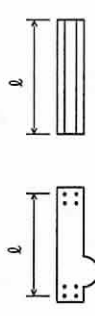
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$
						主げた、主構の中心 間距離 B (m)	$\pm 4 \dots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \dots B > 2$
						主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \dots h > 5$
						仮組 主げた、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \dots$ $L \leq 100$ $25 \dots L > 100$
						立 主げた、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots$ $80 < L \leq 200$
						度 主げた、主構の橋端 における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10
						主げた、主構の鉛直 度 δ (mm)	$3+h/1,000$
						現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
綱げた等	トラス・アーチ等		
	主げた、主構全数を測定。		
	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	両端部及び中心部を測定。		
	最も外側の主げた又は主構について支 点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)		
	各主げたについて各主構の各格点を 10～12m間隔を測定。 L：主げたの 支間長 (m)		
	どちらか一方の主げた (主構) 端を 測定。		
	各主桁の両端部を 支点及び支間中央 付近を測定。 h：主げたの高さ (mm)		
	主げた、主構の全継手数の1/2を 測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス を認めない。		

※規格値のL、B、hに代入する数値はm単位の数値である。
ただし、主構の鉛直度 δ に代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

編	3	土木工事共通編				
章	2	一般施工				
節	12	工場製作工共通				
条	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)				
枝番	2					
測定項目	規格値	部 材 精 度				
フランジ幅 w (m)	±2..... w ≤ 0.5 ±3..... 0.5 < w ≤ 1.0	鋼けた等の部材 の腹板	h / 250			
腹板高 h (m)	±4..... 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2) 2.0 < w	箱けた等のフラ ンジ鋼床版のデ ッキプレート	b / 150			
腹板間隔 b' (m)		フランジの直角度 δ (mm)	w / 200			
板の平面度 δ (mm)		部 材 長 ℓ (m)	±3..... ℓ ≤ 10 ±4..... ℓ > 10			

測定基準	測定箇所	摘要
主げた、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取っ た部材の中央付近を測定。		
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。		
主要部材全数を測定。		
		

※規格値の w, ℓ に代入する数値は m 単位の数値である。
ただし、腹の平面度 δ, フランジの直角度 δ の規格値の h, b, w に代入する数値は mm 単位の数値とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮 組立時))	部材の水平度	±10
						堤 長 L	±30
						堤 長 ℓ	±10
						堤 幅 W	±30
						堤 長 W	±10
						ベースプレートの高さ	±10
						本体の傾き	±H/500
3	2	12	4		鋼製伸縮継手製作工	部材長 w (m)	0~+30
						部 材	
						組合せる伸縮装置 との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ±4
						フィンガーの食い 違い δ_2 (mm)	±2
3	2	12	5		落橋防止装置製作工	部材長 ℓ (m)	±3..... $\ell \leq 10$ ±4..... $\ell > 10$
						部 材	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数を測定。	<p>図a 格子形鋼製砂防ダム 図b 鋼製スリットダムAA型 図c 鋼製スリットダムBB型 図d 鋼製工型スリットダム</p>	
製品全数を測定。	<p>w</p>	
両端及び中央部付近を測定。	<p>(実測値) δ_2</p>	
図面の寸法表示箇所を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	6		橋梁用防護柵製作工	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots$ $l > 10$
						材	
3	2	12	7		アンカーフレーム製作工	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$
						鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$
						高さ h (mm)	± 5
3	2	12	8		プレビーム用柵製作工	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \dots 2.0 < w$
						腹板高 h (m)	
						フランジの直角度 θ (mm)	$w/200$
						部材長 l (m)	$\pm 3 \dots l \leq 10$ $\pm 4 \dots l > 10$
3	2	12			仮組立時	主げたのそり	$-5 \sim +5$ $\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\dots 20 < L \leq 40$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
軸心上全数測定。		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主げたについて10~12m間隔を測定。		

単位：mm

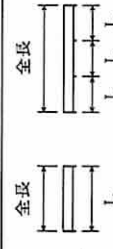
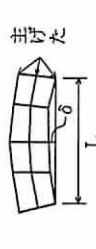
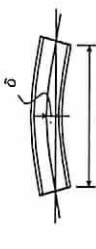


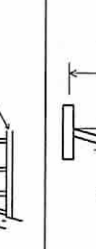
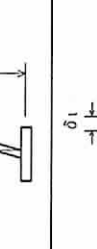
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	9		鋼製排水管製作工	部 材 部 材長 l (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$
3	2	12	10		工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所での測定。		
外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗布後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m ² とする。 1 ロット当たり測定数は 25 点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	13			架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクシヨ ン架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラバラークレーン架設)	全長・支間長	± (20+L/5)
						通り δ (mm)	± (10+L/5)
						そり δ (mm)	± (25+L/2)
						※主げた、主構の 中心間距離 B (m)	±4..... B≤2 ± (3+B/2) B>2
						※主げたの橋端に おける出入差 δ (mm)	設計値 ±10
						※主げた、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000
						※現場継手部 のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	設計値 ±5

※規格値の L, B に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ」の規格値の h に代入する数値はmm単位の数値とする。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各げた毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長 (m)		
L：主げた・主構の支間長 (m)		
主げた、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長 (m)		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主げた (主構) 端を測定。		
各主げたの両端部を測定。 h：主げた・主構の高さ (mm)		
主げた、主構の全継手数の 1/2 を測定。 δ ₁ , δ ₂ のうち大きいもの 設計値が 5 mm 以下の場合、マイナス を認めない。		
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

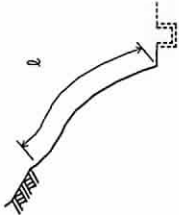
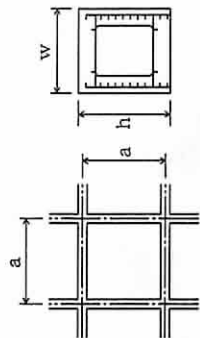
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	13 橋梁架設工	2		架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押し架設)	全長・支間	—
						桁の中心間距離	—
						そ	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工共通	2	1	植生工 (筋芝工) (種子帯工) (植生筋工)	延長 l	-100
						総延長 L	- 0
						長さ l	-100
						面積	- 0
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工共通	2	3	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	長さ l	-100
						面積	- 0
						厚さ t	-10
						厚さ t	-20
但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上。						アンカーピン	- 0
						ラス重ね代	- 0

測定基準	測定箇所	摘要
各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。		
展開図の全測線を測定し、総延長を集計する。 総延長は種別単位とする。		
展開図の全測線を測定し、面積を集計する。 面積管理対象は工事単位とする。		林道事業における種子吹付工の管理は、2-4-2掘削工(切取)及び2-4-3盛土工と兼ねることができ。
展開図の全測線を測定し、面積を集計する。 面積管理対象は工事単位とする。		
200 mにつき1箇所以上、200 m以下は2箇所をせん孔により測定。		
施工面積 400 m ² につき1箇所、400 m ² 以下のものは1施行地につき2箇所、10 m ² の標準地を設定し、アンカーピンの本数及びラスの重ね代を測定。		

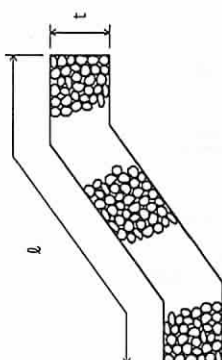
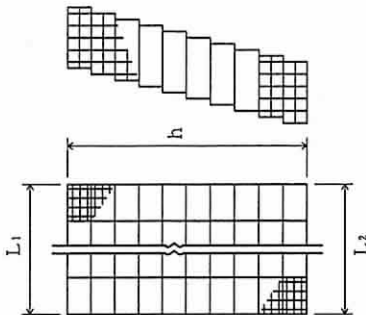
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工共通	3		モルタル・コンクリート吹付工 (コンクリート) (モルタル)	長さ ϕ	-100
						面積	- 0
						厚さ t	-10
						厚さ t	-20
					但し、吹付面に凹凸がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以上		
					アンカーピン 本	- 0	
					ラス重ね代	設計値以上	
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工共通	4		法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工) (プレキャスト法枠工)	長さ ϕ	-100
						面積	- 0
						幅 w	-30
						高さ h	-30
						吹付枠中心間隔 a	±100

測定基準	測定箇所	摘要
展開図の全測線を測定し、面積を計算する。 面積管理対象は工事単位とする。		ラス張工に 関する管理 は吹付工に 準ずる。
200 m ² につき1箇所以上、200 m ² 以下は2箇所をせん孔により測定。		
施工面積400 m ² につき1箇所、400 m ² 以下のものは1施行地につき2箇所、10 m ² の標準地を設定し、アンカーピンの本数及びラスの重ね代を測定。		
展開図の全測線を測定し、面積を計算する。 面積管理対象は工事単位とする。		
施工面積200 m ² につき1箇所、200 m ² 以下のものは1施行地につき2箇所、1枠当たり4方向について測定する。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3	2	14	6		かご工 (じやかご)	$l < 3m$	-50
						$l \geq 3m$	-100
3	2	14	6		かご工 (ふとんかご、かご 枠)	厚さ t	-50
						延長 L_1 、 L_2	-200
3	2	14				高さ h	-100

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値
3	2	15	1		場所打擁壁工		基準高 ∇	± 50
							厚さ t	-20
3	2	15	2		プレキャスト擁壁工		裏込厚さ	-50
							幅 w_1, w_2	-30
3	2	15	2		プレキャスト擁壁工		高さ h	-50
							高さ h	-100
3	2	15	2		プレキャスト擁壁工		延長 L	-200
							延長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
3	土木工事共通編	15	3		補強土壁工 [補強土(テールアルメ)壁工法] [多数アンカー式補強土工法] [ジオテキスタイルを用いた補強土工法]	基準高さ	±50	
						高さ	h < 3m	-50
						鉛直度 Δ	h ≥ 3m	-100
						控え長さ		±0.03hかつ ±300以内 設計値以上
						延長 L		-200

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		